

## 伊那市都市計画審議会議事概要

項 目	伊那市都市計画審議会
開会日時	平成26年10月30日（木）午前10時00分
閉会日時	平成26年10月30日（木）午前11時50分
場 所	伊那市役所本庁2階 第2委員会室
出席者	<p>伊那市都市計画審議会委員</p> <p>上伊那農業協同組合 網野澄子</p> <p>一般社団法人伊那青年会議所 池上裕平</p> <p>伊那市交通安全協会 井上征博</p> <p>伊那市女性団体連絡協議会 兼子徳子</p> <p>伊那商工会議所 唐木和世</p> <p>伊那市区長会長会 黒宮範明</p> <p>信州大学農学部 佐々木隆</p> <p>一般社団法人長野県宅地建物取引業協会南信支部 鈴木孝之</p> <p>女性人材バンク 山田英子</p> <p>一般社団法人長野県建築士会上伊那支部 若林晴二</p> <p>伊那市議会 前澤啓子</p> <p>伊那市議会 丸山徹一郎</p> <p>長野県上伊那地方事務所 青木一男（代理 建築課長 中原章）</p> <p>長野県伊那建設事務所 飯ヶ浜安司</p>
	<p>事務局</p> <p>山崎建設部長</p> <p>浦野都市整備課長、松澤係長、下平技術主任</p> <p>竹松生活環境課長</p>
欠席者	伊那市農業委員会 中山徹夫
議事	（1）調査審議 都市計画ごみ焼却場の決定について
資料	<p>伊那市都市計画審議会次第</p> <p>伊那市都市計画審議会委員名簿</p> <p>伊那市都市計画審議会条例</p> <p>伊那市都市計画審議会運営規則</p> <p>資料1 都市計画決定の手続き</p> <p>資料2 新ごみ中間処理施設の決定について</p> <p>資料3 施設整備計画等</p> <p>参考資料 上位計画及び関連計画</p>

## 1 開 会

## 2 市長あいさつ

## 3 自己紹介

## 4 会長の選出

- ・佐々木隆委員が委員の互選により会長に就任した。

## 5 議 事

- ・会長代理として鈴木孝之委員を会長が指名した。
- ・議事録署名委員を前澤啓子委員、池上裕平委員を会長が指名した。

### (1) 都市計画ごみ焼却場の決定について

- ・資料により事務局から説明。

### 【質疑要旨】

(委 員) 洪水に対する対策についてのどのように考えているか。

(事務局) 進入路の整備と合わせて、現在の三峰川の蛇籠堤防を本堤防へ整備するよう国土交通省と協議中。新山川についても河床整理を県へ要望している。

土地利用の面から、施設の地盤高さを上げることで、浸水にも対応できる計画である。

(委 員) 上流に位置しているダムが老朽化しており、地震時の耐震性に対する対応策を考えた上での位置選定をしているか。

(事務局) ダムの耐震性については、東日本大震災規模の揺れには耐えられると言われており、現状では大丈夫だと考えている。

(委 員) 焼却施設内に水が浸入した際に水蒸気爆発の恐れはないのか。

(事務局) 水蒸気爆発についての確認は行っていないが、炉の構造は一体成形のものであるため、水が炉に入ることは考えにくい。

(委 員) 建物の大きさはどの程度となるのか。

(事務局) 縦60m×横80mが建物の最大規模であり、この大きさを環境影響評価を行っている。高さについては炉の方式にも拠るが、通常建築物の7階程度の高さを考えている。

(委 員) ごみ運搬車の見込み台数、運搬時間及びそのルートはどこを考えているのか。観桜期の交通の混雑との関連はどのように考えているか。

(事務局) 現在稼働中の施設の台数から、一日あたり160台程度を予想している。ごみの受け入れ時間は平日8時30分から16時30分までとしており、通勤時間帯と重複しないようにしている。土、日曜日は受け入れを行わないため運搬車の通行は無い。

ごみ収集車の運搬ルートは国道153号又は竜東線を走行し、ナイスロードと三峰川右岸道路を予定している。

観桜客の車両は土、日曜日に集中しており、土、日の受け入れを行わないため、支障はないと考えている。

(委 員) 三峰川橋から進入路となる堤防が、隣接する三峰川ジョギングサイクリングロードと重複す

るが、どのように計画しているか。

(事務局) 既存のジョギングサイクリングロードを利用できる区間はそのまま利用し、進入路を整備する区間は歩道整備するため、この部分をジョギングサイクリングロードとする予定です。進入路の整備と同時に行う三峰川堤防整備に伴ってできるスペースを、ジョギングサイクリングロードの拠点として充実していくよう考えている。

(委員) 稼働中の伊那中央清掃センターで発生している問題等があれば、新ごみ中間処理施設においても対応策を事前に準備できると思われるが、検討しているか。

(事務局) 現在の2施設ともに年2回地元と設けている対策員会で運営状況等を説明し、要望や意見を頂き、運営について改善していくように対応している。また、大きな問題は発生していない。

(委員) 伊那中央清掃センターの跡地利用の具体案はあるのか。

(事務局) 跡地利用について現段階では具体的な案はないが、今後検討していく予定としている。

(委員) 年間のごみ発生量は変動することが予想されるが、施設の稼働に影響はあるのか。

(事務局) ごみ処理量については、過去の動向と今後の人口減少等を鑑み、さらに見直すが、十分対応可能と考えている。また、季節により変動する処理量も国の基準に基づき計画している。

(委員) 施設周辺の環境整備を充実することによって、観光面でのPRができると思うので、推進してほしい。

(事務局) 施設の周辺整備については、地元と協議をしていく中で、ただのプラント用地とするのではなく、緑地帯や住民が憩えるスペース等これから考えていく予定です。

(委員) 公設民営方式 (DBO方式) というものはどのような方式なのか。

(事務局) 設計、工事、維持管理まで一括して民間へ委託する方式です。今までの維持管理を公共団体が担う方式よりもトータルコストを安くすることができる。

(委員) 新ごみ中間処理施設が稼働終了する時期における次期施設の用地選定についてどのように考えているか。

(事務局) 新ごみ中間処理施設の稼働を終えた次の施設の用地選定については、まず本施設の地元へ建替への可否を伺い、了解されなければ次の候補地から外すこととし、上伊那全体から新たに候補地を選定するよう考えている。

(委員) 環境影響評価で実施した大気質に関する調査内容はどのようなものだったのか。

(事務局) 大気質の調査では、地形が複雑なことから通常的环境影響評価よりも調査地点を増やし、最新のシミュレーション方式を用いて調査を行った。

(委員) 排気の影響について、周辺地域への対応はどのようになっているのか。

(事務局) 排気について、施設予定地は常時風が吹き、特定の場所に大気が滞留するという事がないと環境影響評価で確認された。ダイオキシン類の濃度予測の結果についても、施設ができることによる影響は非常に少ない結果となっている。

(委員) 環境影響評価を踏まえて、地元区としている3区のほかにも美篤地区等の周辺住民の不安が払拭されるよう要望を十分聞いたうえで事業を進めて頂きたい。

(事務局) 周辺地域の皆さんには地元対策委員会で意見を頂いている。美篤地区のうちの3区について、環境関係の保全協定の範囲という事で、対策委員会へ加わっていただくということで進めている。

## 6 その他

- ・特になし

## 7 閉会